

まるもりまち ひっぽ
丸森町筆甫地区

「ひっぽで援農！へそ大根用の大根種まき」を実施しました

宮城県では、平成25年から平成28年までの4年間、中山間地域等の農作業を支援する「集落支援事業」として、大河原管内の七ヶ宿町干蒲・丸森町筆甫・丸森町耕野の3地区で援農ボランティア活動の支援を行ってきました。これまでの参加者は、4年間で延べ約600人となり、各地域では、この活動を通じて特産品の生産継続や、東日本大震災による風評被害の払拭に取り組んできました。

そして、平成29年度からは「農山村集落体制づくり支援事業」として活動地域を宮城県内全域に拡大し、中山間地域に限らず、農山村集落の活性化に向けて支援を行っています。

平成30年8月26日(日)、丸森町筆甫地区で「筆甫で援農！へそ大根用の大根種まき」が開催されました。この活動は筆甫中区集落を中心に行われており、当日は、県内外の会社員や家族連れ17名が集まり、約40アールの畑に種まきを行いました。

「へそ大根」は、筆甫地区の特産品でありながら、東日本大震災の影響を受け、生産が一時中断していました。しかし、その復活を目標に、筆甫地区では平成28年から本格的にへそ大根の生産を再開。栽培面積も少しずつ広げ、地域一丸となって特産品の復活に取り組んでいます。



地域の方から種まきの方法を教えてもらいながら、ひとり一列ずつ播いていきます。



おいしい大根ができるように、
一粒一粒でいねいに・・・





昼食は、筆甫特産の「へそ大根」と「凍み豆腐」をつかった煮物やカレーライスをみんなで一緒にいただきました。
地域の女性のみなさん、ごちそうさまでした！

種まき作業の前には、「ひっぽ電力」について紹介。筆甫地区では、平成28年3月11日に「ひっぽ電力株式会社」を設立し、エネルギー自給のために、自分たちで廃校になった中学校の校庭に太陽光発電を設置しました。



これからは少しずつ面積を拡大させ、ここで得られた収益を筆甫地区の地域振興や福祉事業などに活かしていくそうです。



今回の活動を通じ、筆甫中区集落の方々からは、「ひっぽの農地は山に囲まれ面積も小さく、作業はほとんど手作業。たくさんの人に手伝ってもらえてとても助かっている。」というお話をいただきました。

参加者の皆さんは、毎年参加されている方や家族連れの方、「ひっぽ空き家再生プロジェクト」でつながりのある方など、さまざまなきっかけで今回の活動に参加されていました。

筆甫地区は、地域が主体となって特産品の生産や集落活動の維持に積極的に取り組んでいます。こうした活動を機に、当地区の自然や農産物に関心を持っていただき、引き続き、筆甫地区に足を運んでいただければ幸いです。

参加していただいた皆様、ありがとうございました。

*この活動は、宮城県の「農山村集落体制づくり支援事業」の一環として行っており、宮城県ではこれからも農村集落や中山間地域の持続的発展を支援して参ります。